

令和6年度 地域公共交通に関する自己評価概要（全体）

江南市地域公共交通会議

平成19年 6月27日設置

（令和 7 年 3 月 法定協議会に移行）

平成30年 3 月 「江南市における地域公共交通の基本的な考え方」策定

（令和 7 年 4 月改定）

■ 地域の特性と背景

- ・市東部から南部にかけて名鉄犬山線が走り、江南駅、布袋駅が存在。
- ・名鉄バスが10路線、大口町コミュニティバスが3路線運行。
- ・市内全域で、いこまいC A R※1を運行。計画的な昼間のお出かけに対し、路線バスを補完するものとして市民の足を担う。

- ・第6次総合計画では、以下のとおり拠点を位置付け、中心拠点－地域拠点間や、中心拠点同士を交通ネットワークで結び、住みやすく利便性の高いコンパクトなまちづくりをめざす。

『中心拠点』…江南駅・布袋駅を中心とする区域

『地域拠点』…江南厚生病院～KTXアリーナ周辺

(江南市スポーツセンター)

曼陀羅寺公園～江南団地周辺

■ 公共交通の基本的な方針

- ・コンパクトエリアについては、鉄道や路線バスを中心に市民の足を確保。
- ・コンパクトエリア外については、既存の公共交通をできる限り維持。
- ・市内全域で、路線バス等でカバーできないエリアはいこまいC A Rを運行。
- ・路線バス・いこまいC A Rで対応できない場合は、福祉タクシー（福祉施策）や通常のタクシーで市民の移動を担う。
- ・地域主体の新しい公共交通サービスの導入についてルールを定め、支援を行う。

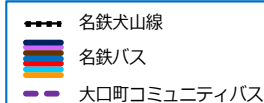
※1 市民の市内の移動手段として市が、運行するタクシーを利用した交通サービス

地域が主体となって、新しい公共交通サービスを導入する場合は、ルールを定め、必要な支援を行う。

コンパクトエリアは、鉄道・路線バスを中心に市民の足を確保。

コンパクトエリア外については、既存の公共交通をできる限り維持する。
市内全域で、路線バス等でカバーできないエリアはいこまいC A Rを運行する。
福祉タクシーや通常のタクシーも足を担う。

令和6年時点の市内公共交通（鉄道・路線バス）



■ 取組期間(総合計画と連動)

平成30年度～令和9年度

政策評価

指標	設定理由と対策	算出方法
市民一人当たりの公共交通利用回数	利用回数の推移について、変動理由を考察。 公共交通政策の方向性の確認を行い、事業に反映。	・路線バスの利用者数（名鉄バス株式会社より提供） ・いこまいC A Rの利用者数（江南市が集計） ・大口町コミュニティバスの江南市内の停留所の利用者数（大口町より提供） R6.4月からR7.3月の上記人数を合計して年間の利用回数を算出し、年度末時点の人口で割って算出。 名鉄バスの利用人数は、古知野線（2路線）、江南・病院線、江南団地線（4路線）、木曽川線、一宮・宮田線（2路線）の路線別利用者数の合計とする。

事業評価

評価対象	指標	設定理由と対策	算出方法
路線バスの維持確保(補助路線)	利用者一人当たりの市負担額の推移(路線別評価)	路線別の推移について、変動理由を考察。 事業評価で報告し、事業の維持・改善に反映。	下記の補助路線における、当該年度の補助金を、補助金算定期間であるR5.10月～R6.9月の利用者数で割って算出。 ・江南・病院線 ・江南団地A線(古知野高校経由) ・江南団地D線(ヴィアモール経由) ・江南団地E線(団地経由江南厚生病院行)
いこまいC A Rの維持確保	市負担額の推移	事業費の変動内容から、変動理由を考察。 事業評価で報告し、事業の継続または見直し内容に反映。	該当年度の決算額を利用。

令和6年度に掲げた対応方針	
公共交通政策	・地域住民のニーズ、及び既存公共交通の課題についての対応を反映させた政策となるよう、地域公共交通会議検討部会を立ち上げ、新たな公共交通について協議を進めていく。 ・いこまいC A Rと福祉タクシーチケットとの並行登録について、各担当部局と連携し、検討していく。
名鉄バス	・主な利用者としては、高齢者だけではなく、次世代利用者である子どもも対象とし、路線バスを最大限利用してもらえるように利用促進を図る。 ・利用実態の把握に努め、必要に応じてダイヤの適正化を実施し、路線バスの維持に取り組む。
いこまいC A R	・利用者ニーズの変化やいこまいC A Rの需要の増加に対応するため、利用時間の平準化等に向けて対策を検討していく。



令和6年度の具体的取組み事項	
	・地域公共交通会議検討部会を開催し、既存公共交通（いこまいC A R、名鉄バス等）の課題を整理し、報告した。地域住民のニーズを把握するために地域懇談会を開催している自治体（豊橋市、岐阜県各務原市）を視察し、市での地域懇談会の開催方法を検討した。 ・令和7年4月からいこまいC A Rと福祉タクシーチケットの並行登録ができるように、高齢者・福祉担当部局と協議を行った。
	・フラワーパーク江南で10月19日に開催されたイベント（Hanaマルシェ）において、名鉄バス株式会社と連携し、ちびっこバス運転士体験を開催し、子どもや子育て世代に対するバス利用促進を図った。 ・江南団地E線のうち、特に利用者が少ない江南団地と江南厚生病院間のバスに乗車し利用実態の把握を行った。 ・江南団地A線と江南団地D線の利用状況を鑑み、運行便数の振り替えの検討を行い、それと同時に令和7年4月から江南・病院線を土曜・日曜・祝日のみ、すいとぴあ江南からフラワーパーク江南間の延伸運行化に向け協議を行った。
	・物価高騰やタクシー初乗り料金の値上げ等を考慮し、利用者負担軽減のため、令和6年4月より、いこまいC A Rの迎車料金を利用者負担から市負担とした。 ・利用時間の平準化に向けて、利用する時間帯で利用者負担割合を変更した場合の試算をしたが、平準化の度合いによっては市の負担が増える結果となり、引き続き検討を続けることとした。

■ 政策評価

指標	H28(基準年)	R5(前年)
市民一人当たりの公共交通利用回数	11	9

(単位:回/人) ※小数点以下四捨五入

R6(評価年)	評価
9	△

【参考】利用回数内訳

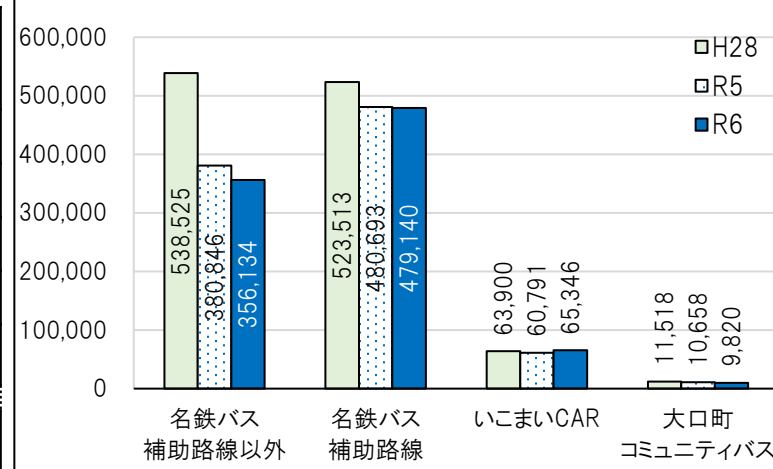
内訳	H28(基準年) (H28.4~H29.3)	R5(前年) (R5.4~R6.3)
名鉄バス補助路線以外	538,525	380,846
名鉄バス補助路線	523,513	480,693
いこまいCAR	63,900	60,791
大口町コミュニティバス	11,518	10,658
合 計	1,137,456	932,988
年度末時点人口	100,915	98,389

(単位:回,人)

R6(評価年) (R6.4~R7.3)
356,134
479,140
65,346
9,820
910,440
97,928

利用回数(回)

公共交通の利用回数



評価に関する考察

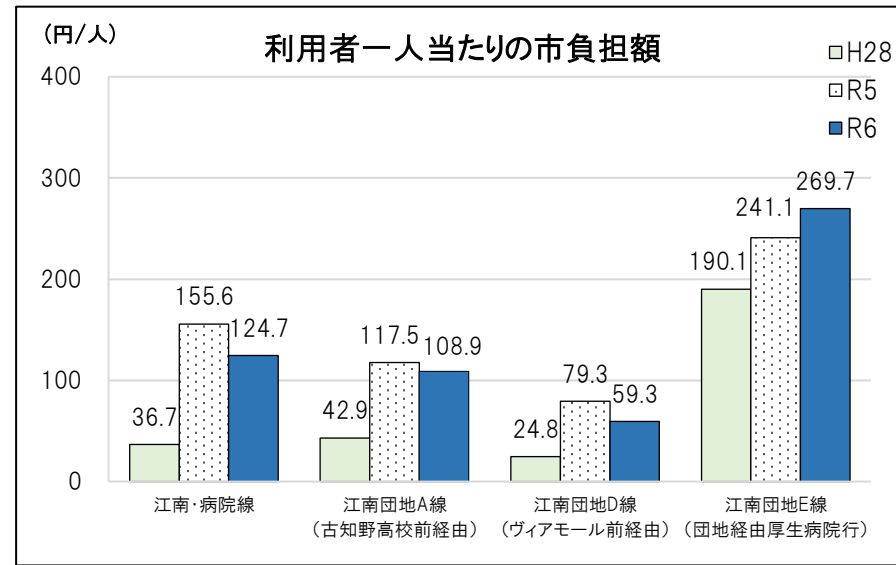
- ・ 名鉄バス補助路線以外の利用回数が、基準年（H28）と比較し大幅に減少となったのは、市内の私立中学・高校において、令和3年10月から一宮駅を発着するスクールバスの運行が始まったことが主な要因と推測する。
- ・ 名鉄バス及び大口町コミュニティバスの利用回数が、前年度と比較し減少となったのは、「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準（令和6年4月施行）」により、運転手が不足しバスが減便されたことが主な要因と推測する。
- ・ いこまいCARの利用回数が、前年度と比較し増加となったのは、令和6年4月から迎車料金の200円を市が負担するよう変更したことにより、利用者の負担額が減ったことが一因と推測する。

■ 事業評価（路線バス）※補助路線

利用者一人当たりの市負担額（年間補助額）の推移（補助対象期間）

区分	H28(基準年) (H27.10~H28.9)	R5(前年) (R4.10~R5.9)	R6(評価年) (R5.10~R6.9)
江南・病院線	36.7	155.6	124.7
江南団地A線 (古知野高校前経由)	42.9	117.5	108.9
江南団地D線 (ヴィアモール前経由)	24.8	79.3	59.3
江南団地E線 (団地経由厚生病院行)	190.1	241.1	269.7

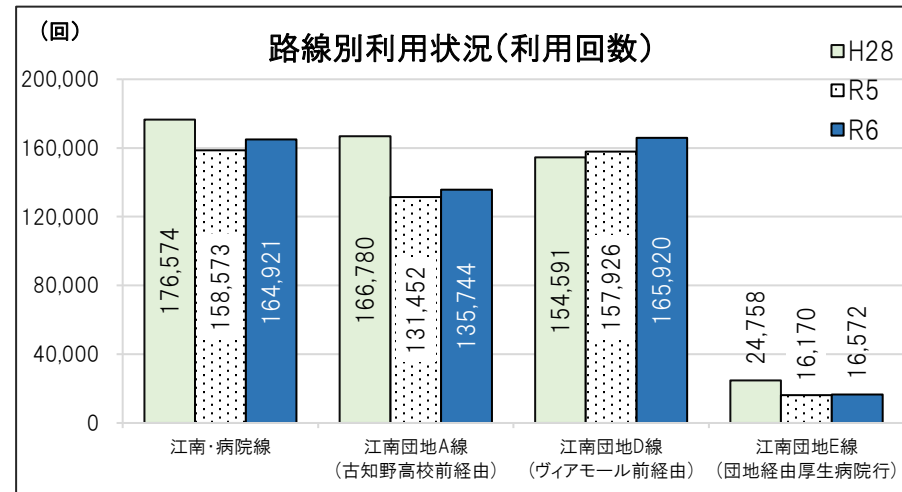
(単位:円/人)



年間利用回数（補助対象期間）

区分	H28(基準年) (H27.10~H28.9)	R5(前年) (R4.10~R5.9)	R6(評価年) (R5.10~R6.9)
江南・病院線	176,574	158,573	164,921
江南団地A線 (古知野高校前経由)	166,780	131,452	135,744
江南団地D線 (ヴィアモール前経由)	154,591	157,926	165,920
江南団地E線 (団地経由厚生病院行)	24,758	16,170	16,572

(単位:回)



■ 事業評価（路線バス）※補助路線

評価に関する考察（補助対象期間における前年度との比較）

【江南・病院線】

- ・年間利用回数は、令和5年度と比較して6,348回（4.0%）増加した。
- ・令和6年4月から平日4便減少したものの、令和6年度は令和5年度と比較して、年間利用回数が増加したため、利用者一人当たりの市負担額が減少した。

【江南団地A線】

- ・年間利用回数は、令和5年度と比較して4,292回（3.3%）増加した。
- ・令和6年4月から平日2便減少したものの、令和6年度は令和5年度と比較して、年間利用回数が増加したため、利用者一人当たりの市負担額が減少した。

【江南団地D線】

- ・年間利用回数は、令和5年度と比較して7,994回（5.1%）増加した。
- ・年間利用回数が増加したため、利用者一人当たりの市負担額が減少した。

【江南団地E線】

- ・年間利用回数は、令和5年度と比較して402回（2.5%）増加した。
- ・年間利用回数は微増したが、経常経費が増加したことにより、利用者一人当たりの市負担額が増加した。
- ・江南団地～江南厚生病院間の利用者は極めて少数である。バスに乗車し、利用実態調査を行った結果、高齢者の江南厚生病院への通院が主な利用目的で、江南団地の居住者の利用がほとんどであった。

■ 事業評価（いこまいC A R）

市負担額の推移

	H28(基準年)	R5(前年)
市負担額	32,002,680	34,670,810



(単位:円)

R6(評価年)
47,335,140 (迎車料金除く: 37,879,140)

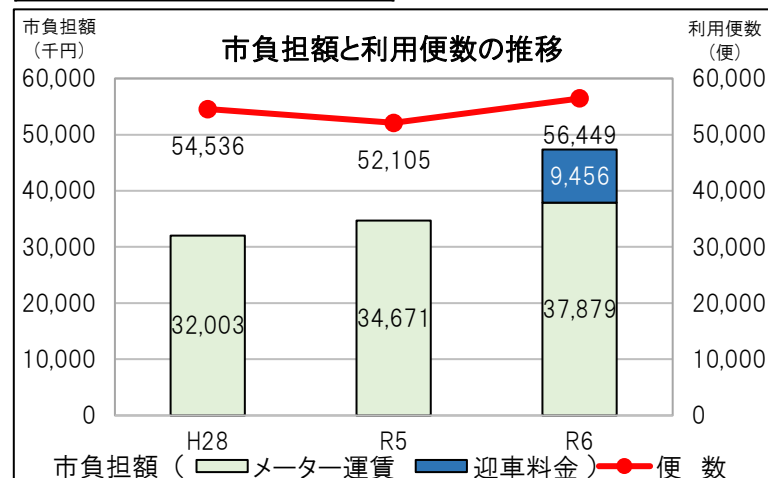
年間利用状況（※令和元年10月1日から立寄りを開始）

区分	H28(基準年)	R5(前年)	R6(評価年)
利用便数	54,536	52,105	56,449
利用回数 (=乗車人数)	63,900	60,791	65,346
登録者数	7,264	8,881	9,089
利用者数(登録者数のうち実際に利用した人数)	2,229	2,455	2,475
立寄り便数	—	824	1,153



評価に関する考察

- ・ 利用便数が前年度と比較して増加したのは、令和6年4月1日から迎車料金の200円を市が負担したことが一因と考えられる。
- ・ 市負担額は年々増加傾向であることから、令和7年度に予定されているタクシー料金の改定による影響が懸念される。
- ・ 通院利用が午前中に偏っており、稼働車両の増加が見込められない中、利用便数が前年度と比較して増加したのは、タクシー事業者と利用者間で利用時間調整を行ったことが一因と考えられる。



課題		対応方針（令和7年度取組み事項）
公共交通政策 (P5)	- 公共交通全体の利用者数は減少傾向にあり、今後の人口減少により更なる利用者数の減少が懸念される。 「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準」の施行を発端にした運転手不足により、将来の公共交通サービスの維持が懸念される。 - 地域公共交通会議検討部会の中で、江南市北部地域のニーズを把握するため、地域懇談会の実施を求められている。	- 地域住民のニーズ、及び既存公共交通の課題について公共交通基礎調査を行い、その結果を踏まえた政策となるよう、地域公共交通計画策定に向け、地域公共交通会議等での協議・検討を進めていく。 - 江南市北部地域において地域懇談会を実施し、地域のニーズを把握し、新たな地域公共交通の導入の可能性を検討する。
名鉄バス (P6.7)	補助路線の年間利用回数は増加傾向にあるが、江南団地E線の一人当たりの市負担額が増加しているため、より多くの人に使ってもらえるようにバスの利用促進をする取組が必要である。	- 名鉄バス株式会社と連携して、次世代の利用者である子どもを対象とし、路線バスを利用してもらえるようなイベントを実施し、バスの利用促進を図る。 - 江南団地E線の利用実態調査を続けるとともに、沿線住民のニーズを把握する調査の実施を検討する。
いこまいCAR (P8)	市負担額は年々増加傾向であることから、令和7年度に予定されているタクシー料金の改定による影響が懸念される。	タクシー料金の改定の影響を把握し、翌年度以降の利用回数や市負担額への影響額を推計する。